

幌延フォーラム2013 挨拶要旨

平成25年11月14日

幌延深地層研究センター所長 清水和彦

幌延フォーラムは、幌延深地層研究センターで行っている業務の状況や研究内容について、地域の皆さまに広く親しんでいただくことを目的に、毎年秋に開催しているものです。

幌延深地層研究センターは、平成13年4月に開設して以来、順調に施設の整備と研究開発を進め、着実に成果をあげつつあります。これもひとえに幌延町をはじめとする地域の皆さまの温かいご支援の賜物と深く感謝しております。

地下施設は、3本の立坑が深さ350mまで掘り進んでおり、10月9日には、深さ350mで水平方向に展開する8の字状の坑道（連絡通路）が貫通しました。今後は、試験を行うための坑道の整備やエレベータを下まで降ろすための立坑の掘り増しといった作業が残っていますが、来年の6月頃には完了する予定です。

来年度からは、これまで進めてきた地下の岩石や地下水などを調べる地球科学的な研究に加えて、地層処分で用いる人工的な材料（人工バリア）を使った本格的な試験を開始する予定です。

来年の夏ごろには、皆さまを地下350mまでご案内できるようになると思いますので、是非、当センターの地下施設見学会にもご参加ください。

本日は、特別講演として、宗谷健康人プロジェクト代表の門間 奈月（もんま なつき）さんに、「心と体のコリをほぐす、メンタル&ボディケア」と題してお話をさせていただきます。特別講演に引き続き、当センターから、地下施設の中の様子や来年度から開始する人工バリアの試験について紹介させていただきます。

現在、国においては、原子力を含むエネルギー政策の見直しや高レベル放射性廃棄物の地層処分事業の立て直しに向けた議論が進められており、原子力機構においては、もんじゅおよびJ-PARCでの不祥事を受けて、安全文化の向上と業務の重点化を目指した原子力機構改革に取り組んでいるところです。

まさに大きな変革の時期にあって、幌延での深地層研究計画についても将来の具体的な姿を見通すことが難しい状況にあります。いま言えることは、計画を始める際に幌延町と北海道との間で取り交わした三者協定を確実に守っていくことに尽きると思っています。そして当面の間は、いま準備をしている深さ350mでの試験をしっかりとやり遂げていきたいと考えています。

高レベル放射性廃棄物は私たちの世代が作り出した重大な問題です。この問題の解決に向けて必要な技術と信頼、これを支えるための中核的な研究開発拠点として、幌延深地層研究センターが果たしていくべき役割は、今後さらに重要になってくるものと確信しています。

今後とも、安全対策に万全を期すとともに、情報公開の徹底を図りながら、着実に研究開発を進めていきますので、引き続き、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

以 上